2021年12月19日・中山・2歳新馬戦・パドック

小島友実の

あの馬のSTORY

スウィートプロミス

スウィートプロミスの母は以前、グリーンファームに所属し、浦和のオーバルスプリントを勝つなど活躍したアースサウンド。尾関知人調教師は2馬仔のガーデンコンサート、3番仔のサウンドトラックに続いて、アースサウンドの仔を管理しています。

スウィートプロミスの1歳募集時の際に行った尾関調教師へのインタビューを読み返してみたら、「これまで私が手掛けてきたアースサウンドの子供の中では一番、芝への適性がありそう。スピードタイプで、マイル前後で活躍してくれそうです」と書いてあったんです。実際、スウィートプロミスのデビュー戦は昨年12月19日の中山芝1600㍍。コメント通りになっているんですよね。ここまでの経緯を尾関師はこう振り返ります。

「2歳の夏に疝痛の症状があり、入厩が遅れたものの、その前後は順調でした。モーリス産駒で1歳当時から柔らかさがあり、その柔軟性を保ったまま成長してくれています。トレセンに入ってからもキビキビした走りで反応が良く、バネも感じさせました。だから、中山芝のマイル戦でデビューする事になったんです」

4枠7番からスタートしたスウィートプロミス。結果は4着でした。

「スタートして行きたがるところを、三浦皇成騎手が先々の事を考えて抑えようとしてくれていたんですが、外からかぶされた事もあり、途中からハナに立つ競馬。自分のリズムで走れませんでした。スタートが良かったですし、スピードを見せてくれたので、思っていた以上に競馬センスがあるなと感じましたね」

そして、1月9日の2戦目も中山芝のマイル戦。結果は6着でした。

「この時は7枠14番。中山のマイル戦はハイペースになると外枠は不利ですよね。ペースが流れて、終始、外を追走する形。それでも大きく負けていないし、デビュー戦から1秒以上も時計を詰めましたからね。食らいついて追走できていたので、ポテンシャルを感じました」

そしてこの2戦を振り返り、こう話を続けます。

「2戦とも敗因がはっきりしている中で、そんなに前から離されていません。底を見せていないと思います。現段階では、中山なら小回りなのでマイルでも対応できますね。今後、レース経験を重ねていき、気持ちが入ってきたら、もう少し短い距離を走るような馬になるのかな、という印象を持っています。だから、もし東京で走るならば1400㍍の方がいいかもしれませんね。直線が長いコースは、より距離適性が問われますから」

前述したように、尾関調教師がアースサウンドの子供を預かるのはスウィートプロミスが3頭目。姉のガーデンコンサートや兄のサウンドトラックとの比較や相違点などが気になるところです。

「馬体は3頭ともタイプが違いますね。アースサウンドの子供は種牡馬の特徴がよく出る印象。スウィートプロミスは本当にモーリス産駒という感じです。姉と兄は体と心のバランスが崩れてしまうと走る事に気持ちが向かなくなる面がありました。現段階でスウィートプロミスはそういう面を見せていませんが、例えば続戦する時には、より慎重に状態を見極めるなど、今後も特に気をつけていきたいと思います」

普段の馬房の様子も伺いました。

「オルフェーヴル産駒のサウンドトラックは頭部につけていた無口を勝手に外してしまうようなやんちゃ坊主でしたが、スウィートプロミスは大人しいですね。飼葉もちゃんと食べてくれています」

2戦目の後は放牧に出ているスウィートプロミス。今後の展望を伺いました。

「順調に行けば、3月くらいに復帰戦を迎えられそうです。血統面からはダートも走れそうですが、もう一度芝を走らせてみたいですね。タイミングが合えば、中京の芝1400㍍という選択肢もあると思います。この馬はおそらく、本質的にはマイルは長く、スプリントを走らせるとテンパってしまう可能性があります。ですから今後は芝でもダートでも1400㍍で活躍できたら面白いですよね」

最後にメッセージを頂きました。

「昨年4月、サウンドトラックがレース中の怪我が原因で、残念ながら亡くなってしまいました。妹に過度な期待を押しつけるわけではありませんが、やはりお兄ちゃんの分まで頑張ってもらいたいと思っています。まずはしっかり初勝利を挙げられるよう頑張っていきます。応援して下さい」

尾関調教師はスウィートプロミスの長所を「スピードがあり、それを発揮できる前向きさを持ち合わせているところ」と語っていました。この2戦からも〝走りたい〟という気持ちが伝わってきますよね。今後も応援していきたいです。

（2月3日：電話取材）

profile
競馬キャスター&ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA−VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。